

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 多機能型事業所リズム

保護者等数(児童数) 22(22) 回収数 16 割合 72%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	16					室内だけでなく、敷地内にある学習室、スイミングスクール学童クラブVI-VAや中庭などいろいろな場所で活動や遊びができるようにしています。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	11			5		10名定員に対し児発管1名と指導員2名の配置が基準となっておりますが、多様な活動と目の届く支援を行うために人員を多く配置しています。外部の作業療法士や言語聴覚士による研修を実施し、職員の専門性を高めています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12	1		3	あまり事業所を見ることがないので	絵やカラーシールなどで視覚的に分かりやすくし、マットなどを使って遊ぶ場所・活動場所がわかるように工夫しています。デイサービスにエレベーターを設置していますので、階段昇降が難しい利用者さんに関してはエレベーターを使用しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	15			1		活動中は空気清浄機(除菌用)の使用と、こまめな消毒を行っています。子ども達が使ったおもちゃなども定期的に消毒を行っています。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	16					フェイスシートや面談・担当者会議などでニーズを把握し、発達に応じた課題の計画を立てるようにしています。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12			4		ガイドラインに則って、お子様が楽しみながら活動できるように工夫しています。これからも楽しんでもらえるように支援していきます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14			2		お子様一人ひとりに応じた支援になるようにしています。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	15			1		楽しみながら活動できるように、ゲーム的要素を取り入れるなど工夫をしています。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10			6		やまびこ保育園の園児さんを招待してもちつきを一緒に行いました。また、学童クラブVI-VAとクリスマス会、豆まきなどを合同で行っています。2月にはりずりるカフェ、3月には一般のプール会員様やデイサービスの利用者さんと一緒に、水泳の記録会を開催しました。
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	15			1		契約時に読み合わせをして確認をしています。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	13			3		面談時や書面にて説明させていただいています。ご質問等があれば、ご連絡ください。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
適切な支援の提供	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	3	2	1	10	トレーニングでは無いが、相談した際にデイでの対応方法などを、ご指導頂いています	言語聴覚士を講師として、勉強会を開催しました。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	15			1		電話やHUGなどでお子様の様子をお伝えするようにしています。また、保護者様からもお子様のことを詳しく知らせていただいております、大変感謝しています。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	10			6	アプリやLINEの活用でアプリ導入前に比べると気軽に相談出来るようになった	HUGや電話等でお子様の様子をお伝えするようにしています。保護者様に寄り添っていけるように努めていきます。ご心配なことがありましたらお気軽にお知らせください。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	5	3	2	6	父母会ではないが、ミニ運動会のあとに懇親会を開催してくれたり、イベント(りずりるcafe)を通して保護者間の交流が出来た	りずりるカフェの開催や、外部の言語聴覚士による研修を保護者様と一緒にを行いました。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	15			1		迅速かつ適切に対応するようにしています。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	15			1		HUG・電話、送迎時など様々な方法で情報共有するようにしています。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	14			2		ミニリズムだよりを通して、活動やお子様の様子をお伝えするようにしています。ホームページには、活動の様子も掲載しております。インスタグラムもぜひご覧ください。
	19 個人情報の取扱いに十分注意されている	15			1		鍵付きの書庫に個人情報を保管し、取扱いの注意を全職員が徹底するようにしています。
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	9	1		6		避難訓練を年2回行っています。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	9			7		レク活動の中で、防災週間を設定し、避難訓練や紙芝居、動画を通して学べるようにしています。
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしている	15	1				お子様一人ひとりが”安心して楽しめる場所”となるように、今後も取り組んでまいります。
	23 事業所の支援に満足している	16				大満足しており、安心して利用することが出来ています	満足していただい、職員一同とても嬉しく思います。今後も、お子様と保護者様に寄り添った支援ができるように努めてまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 28日

事業所名 多機能型事業所リズム

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		活動内容によって机などを移動しています。	
	2	職員の配置数は適切である	4	2		基準より多くの職員を配置し、細やかな支援を心がけている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6			荷物を置く場所、活動する場所など視覚的に分かりやすくなるようにしている。また、手洗い場には踏み台を置いている。イラストや写真を活用して、おもちゃの片付け場所が分かるようにしている。また、必要に応じてデイサービス側のエレベーターも活用している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			活動ごと、食事前など消毒液を使って机拭きをしています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1		毎月のミーティングで改善を図っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		戻ってきた評価に目を通し、改善すべきことについて話し合っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		評価の結果をホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	1	相談員や他施設職員を招き、施設内見学や支援の様子を観察していただいている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			姉妹事業所や同一法人の他部署と研修をしている。	
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3	3		標準化されたアセスメントツール(フェイスシート)を活用している。年に1回保護者に見直しをしてもらい、今後の支援につなげている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3		標準化されたアセスメントツールを使っている。	お子様の成長が感じられるようなツールを模索している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2		保護者や子どものニーズを把握し、必要な支援を行っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			個別支援軽作を職員で共有し、支援を行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2		ミーティングを定期的に行い、プログラムを立案している。	
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1		同じ活動ばかりにならないようにアイデアを出し合っている。		

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	1			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		ミーティングを行っている。送迎場所と時間、体調などの情報を共有し、その日の支援の内容と役割分担の確認を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		毎日振り返りを実施している。また、日報の中で個々人の記録を書き残すことで、いつでも確認できるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			日報を作成し、支援の検証・改善につなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	1		モニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2		児童発達管理責任者が出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	2			医療的ケアが必要なお子さんを預かっていませんが体制は整えている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	2			医療的ケアが必要なお子さんを預かっていませんが体制は整えている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2			要請があれば、参加するようにしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		研修に参加した職員だけでなく、学んだことを事業所内で伝達講習している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	1		近隣の保育園と1月にもちつき会を実施した。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3		「南風原町障害者週間実行委員会」主催のイベントに参加した。	地域自立支援協議会は開催されるようであれば関わっていききたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			連絡ノートや電話、LINE等を活用し、共通理解を図っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2		言語聴覚士を講師に「心地よく過ごす」ための子どもとの関わり方について学習会を開催した。	次年度も別のテーマで開催したい。

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2		契約時に書面を読み上げながら、説明を行っている。また、必要に応じて適宜行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	2		署名・押印を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			ご相談があつときに、面談をもつようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2		講演会后、話し合いをする時間を設けた。「りずりるカフェ」イベントでは、多くの保護者が参加し顔を合わせる機会となった。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあつた場合に迅速かつ適切に対応している	5	1		お子様や保護者様からの問い合わせがあつた場合には、事実をすぐに確認し、迅速かつ適切に対応するよう努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			リズム便りを毎月発行している。必要に応じて手紙やLINEも活用してお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			書類は、鍵の閉まる書庫に保管している。写真などの公開については、保護者の同意を得ている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1		手紙・電話・LINEと様々な手段を使って意思の疎通や情報伝達を図っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2		「りずりるカフェ」イベントのときに地域の方が参加してくれた。地域のおまつりに参加した。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2		マニュアルを策定し、職員で共有している。	保護者へ周知できるようにする。マニュアルの見直しも図りたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	2		避難訓練を年2回実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			アセスメントのときに処方箋のコピーをいただくようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		保護者様に確認をし指示を受けている。アレルギー配慮児については、一覧にして全職員が把握するようにしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			ささいなことでも記録を残している。それを基に事例集を作成し、月1回ヒヤリミーティングを実施している。。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			虐待防止委員会を設置している。また、日常的に子どもとの関わりについてふりかえりを行っている。	事業所で研修を続けていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	1		やむを得ない場合は、法人で定めた「身体的拘束等適正化のための指針」に則って行うこととしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。